

大垣北高関東同窓会会報

第40号

令和元年9月20日発行
大垣北高関東同窓会事務局
東京都中央区日本橋小網町
18-20-1005
TEL.03-3941-1612

会長挨拶

今年は夏の猛暑とか、早くからの台風到来とか異常気象が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年度、同窓会の新しい活動といたしまして、この年大垣北高を卒業し、首都圏の大学に入学された新入生をご招待いたしましたところ、男女四名の方が出席してくださいました。卒業以来お互いに東京に来ていたのを始めて知ったり、ある方などは入学した大学が間違っていたのではないかと悩んでいらつしやいました。当同窓会の優秀な諸先輩のアドバイスを受けられて、とても明るい表情になって帰られました。その後その方から、大学の奨学金を利用して海外を見てくることにしたとご報告をいただきました。このように後進の方のお役に立てたかと感じられたのはとても嬉しいことの一つでございます。これも偏に本校の先生方のご協力があったからこそと、誠にありがたく思っております。

さて、この大垣北高関東同窓会は、今年創立四十三周年を迎える伝統ある会でございますが、今後も時代に沿ったやり方で若い方々の力を発揮して頂き、活動していただいていることを期待しております。

渡辺会長から引き継ぎまして四年間、未熟な私が会長職の務めを果たすことができましたのは、皆様のご支援、ご協力があったからこそと、心より感謝申し上げる次第です、誠にありがとうございました。

令和元年九月

大垣北高関東同窓会 会長 大石アケミ



第42回大垣北高関東同窓会総会・懇親会

今後の大垣北高関東同窓会の運営について

三年前の幹事学年がきっかけで大垣北高関東同窓会（以下、本会）の幹事をしています。七月三十日の幹事会に久しぶりに出席したところ、突如この難しいテーマの記事の執筆を割り当てられた次第です。幹事会の中でもまだほとんど議論されていませんが、今後の議論のスタートとして、何人かの幹事の方々からいただいた意見や情報をもとに、個人的な意見も交えて少し書かせていただきました。

なお、本年度総会の案内に同封の欠返信はがきには、今後の本会に関する意見・要望欄が設けてあります。この拙文をご高覧の上、会員皆様のご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

一、本会の活動の現状と課題

本会は、同郷または同窓である会員相互の啓発と親睦を図り、地元の北高同窓会に協力することを目的として、会員から年会費（一口二千元以上）を徴収し、それをもとに活動を行っています。年一回の総会開催と会報発行。このほかに、同窓生による講演会、今回の会報でも紹介している首都圏大学への新入生の歓迎会などを随時行っています。また本会の運営は、会長と十名程度の幹事が担っています。総会などの大きな行事では、幹事学年（年齢では六十五歳位の年次）にお手伝いをいただいています。現在の会員状況を把握するため、幹事会で下図



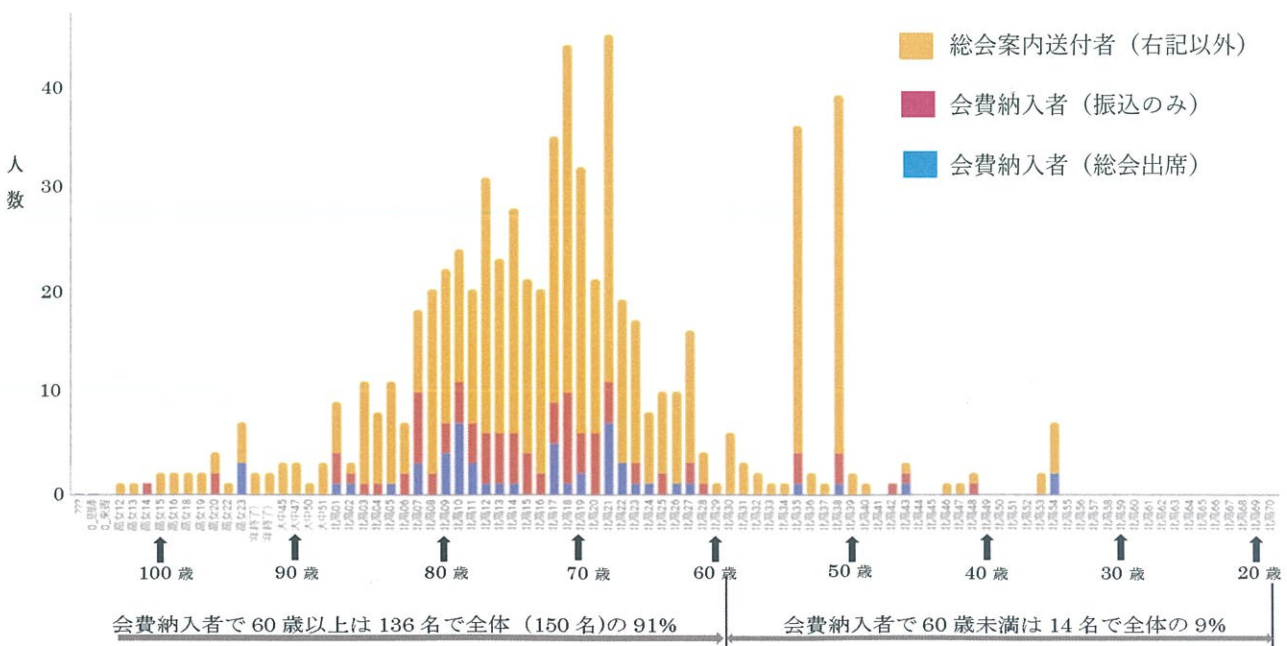
のようなグラフを作成しました。平成三十年度の総会案内送付者の年齢分布です。このうち年会費納入者は百五十名で、その九十%以上が六十歳を超えた方々です。それ以下の年齢の方は、四十年の幅にもかかわらず十数名と極めて少ない状態で、新しい入会者もほとんどいないため、会費納入者は年々減少しています。また、総会参加者は、案内送付者約六百名に対し、その約十分の一の六十名弱にとどまっています。参加者が少なく高齢者に偏っていることが、幹事学年をふくめた幹事のモチベーションの低下につながっているようです。日常の運営の面でも、会費徴収、会計、会員名簿管理、会報発行などの作業がありますが、高齢の幹事に負担になっています。

世の中の流れと同様に、本会も高齢化と活動参加者数の減少が深刻になっており、今後の本会の運営について、原点に立ち返った議論が必要となってきました。

二、今後の運営の基本的な方向性について

「本会の目的と会員の範囲をどう捉えるか」が、今後の運営を考える上で非常に重要なポイントになるような気がします。本会は、会則の上では、関東地区に縁のある全世代の卒業生を会員とする会ですが、実態は先のグラフのとおり高齢者に偏った、会費納入者による「有志の会」であることを再認識する必要があるように思います。

やや飛躍しますが、今後の方向性に関して三つの案を考えてみました。



大垣北高関東同窓会メンバー構成(平成三十年度)

- ① 二十歳代、三十歳代も含めて全世代を会員とする同窓会への移行を目指す案
- ② 世代の若返りを図りつつ「有志の会」の形態での継続を目指す案
- ③ 現状の高齢化した「有志の会」をそのまま継続していく案

少し各案の課題を挙げてみます。①の場合、大垣の同窓会の関東版のような性格になりますが、運営体制が可能かという以前に、関東でつくる意義がまず問われるでしょう。②の場合、若い世代で本会の目的に賛同して力を貸してくれる相当数の幹事がいるかどうか、若い世代の会員をどう増やすかなどの問題をクリアする必要があります。③の場合は、近い将来に四十年以上にわたる本会の歴史に幕を閉じることを覚悟しての選択になります。

個人的には、②の選択をイメージしていますが、基本的な方向性が確認できれば、おのずと学校や大垣の同窓会との協力・連携のあり方、総会の開催方法、会報の継続、会費の徴収の要否、会員名簿の管理など、本会の運営にかかわる具体的事項について、適切かつ合理的な方法が見いだせると思います。

本件については、これから幹事会を中心に議論される予定ですが、重要な変更事項については、総会等で説明し承認を得ることになります。会員の皆様からの忌憚のないご意見・ご要望を重ねてお願いいたします。

同窓会 副会長 水谷 進

大垣北高関東同窓会 沿革と行事 (大垣北高百年史掲載)

同窓会員入会の絶えた関東大中会と大垣高女東垣会は、新制高校発足後二十七年を経て、昭和五十二年七月七日、大中、高女、北高の在京有志話合により、三会合併の関東大垣北高同窓会に設立を見ることが出来、昭和六十年に大垣北高関東同窓会と改称、今日に到る。

初代高木会長は、二年で物故され、形造られた同窓会は、二代川勝会長によって、年一回秋の定例総会を開催。会員の定着と増大、その盛況は、会長を支える幹事諸兄の尽力により十四年。残念ながら前年十二月末、川勝会長ご逝去。郷土大垣を、斗酒なお辞せずの豪傑、医学の徒なる先生とても、病魔に勝てず、愛惜の情ひとしおでございませぬ。

ここで新しく北高卒の会長を選出し、先師を継承する高潔の氏、平野幸夫会長誕生となった。

同窓会の会場は、東京駅の上にあったルビーホールを始めとして、現在の主婦会館に到るまで、四会場が利用された。

ルビーホール⇒五反田ゆーぽーと⇒NHK
青山荘⇒主婦会館プラザエフ

歴代会長

- 初代 昭和五十二年～五十四年
高本園雄氏 大中二十期
- 二代 昭和五十四年～平成四年
川勝稔雄氏 大中四十四期
- 三代 平成四年～十二年
平野幸夫氏 北高一期
- 四代 平成十二年～十八年
宇野郁夫氏 北高一期
- 五代 平成十八年～二十六年
渡邊三鶴氏 北高六期
- 六代 平成二十六年～現在
大石アケミ氏 北高十期

雑感

同窓会 幹事 白石周子

私が大垣北高関東同窓会の存在を知ったのは、三十代後半だったように思います。その頃は、子育てと生活に追われ、とても自分のために時間は持てませんでした。

四十代後半に、再度同期から連絡があり、参加した折に同期会をしたらとの声があがり、その年の暮から十七回生の会が始まり、途中から私が幹事となり二十年以上続いております。

関東同窓会には参加していなかったの

ですが、堤俊彦さんが同窓会会長、所史隆さんが事務局長として大垣から参加された時は、十七回生に動員がかかり、何人かを集めました。

その後、幹事学年である旨の連絡を受けた時に、初めてその制度を知りました。

大石会長からの連絡で幹事に参加させて頂きましたが、十回生以上の方が大半でした。場所は渋谷の知り合いのスナック!! これは会議なのかな?でも皆さんが楽しんで!!

会報の発送についての話で長津田の幹事さんのところに伺った折も、既定の手順で話は進み、幹事学年の仕事は人集めと受だけでした。

新事務所に移ってからの会合で、私と清水寛司さん(十七回生)は、会報の編集委員ということになりましたが、三十代の人達の参加で、彼等と大石さんが大半を仕切られる様になり出番なし!!幹事会に行っても。。。清水君と足が遠のきました。

時折、大石さんから連絡を頂いておりましたが、八王子に住むようになり、幹事会への参加は益々難しくなりました。

最近の若い方々の率直な意見を拝聴し、正直なところ、今の同窓会の現状は、来るべきして来た結果とも思っています。

会報の原稿をとの役割をいただき、勝手な雑感を記させていただきました。

新卒業生歓迎会の報告

二〇一九年四月二十日(土)、今春大垣北高を卒業されて、首都圏の大学に進学された新卒業生の歓迎会を開催しました。大垣北高関東同窓会としては初めての試みでしたが、会として次の世代に役立てることはないかと、昨秋の総会にご出席頂いた母校の増田校長先生とご相談させて頂いた上での企画でした。

校長先生をはじめとする大垣北高関係の方にご賛同頂き、今年二月の卒業式(兼同窓会入会式)に関東同窓会主催の歓迎会のご案内を全卒業生に配布して頂いた結果、四月二十日当日は、四名の新卒業生に参加して頂き、関東同窓会からは大石会長(十回生)以下五名が参加しました。

東京での新生活が始まって一か月も経っていない時期だったため、環境の変化にまだまだ馴染めていなさそうな新卒業生達でしたが、この会をきっかけに上京した同級生同士の交流が復活したり、わずかながらでも四人の新生活への旅立ちのお役に立てていたように思います。

会はバイキング形式の料理でお腹一杯になった新卒業生四人が、晴れ渡った

空の下、向かいの日比谷公園へ散策に出かける姿を、同窓会幹事一同で見送って散会致しました。

来春の新卒業生達にも同様な歓迎会をしたいと思えます。その際には、今年、参加してくれた卒業生達には先輩として来て頂いて、同世代の経験を共有して頂きたいと思えます。

最後に、会に全面的にご協力頂いた大垣北高の増田校長先生、同窓会担当の五十川先生に改めて御礼申し上げます。

同窓会 副会長 福澤賢治



新卒業生歓迎会(2019.4.20)

